

第3回 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

| | | |
|--------------|---------------------------|---|
| 開催日時 | 2022年4月15日（金） 14：00～15：13 | |
| 開催場所 | 町田市立町田第三小学校 3階図書室 | |
| 出席者 (敬称略) | 委員 | 村田委員、白石委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中瀬委員、小原委員、北澤委員、本城委員、◎若月委員、大波多委員、望月委員、西山委員、○杉本委員、大谷委員 (◎会長 ○副会長) |
| | 事務局 | 教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター |
| 傍聴者 | 0名 | |

議事内容

1 基本計画検討会委員の変更と第2回基本計画検討会の振り返り

新たな学校推進課（資料1-1～3説明）

新委員自己紹介

2 意見募集結果について

新たな学校推進課（資料2-1～2説明）

意見募集結果については、学校や地域の特色については学校名の検討時の参考資料とするなど、各検討項目に活用していく。

3 学校名意見募集について

新たな学校推進課（資料3-1～3説明）

学校名については学校名意見募集を実施したうえで、その結果を確認しながら検討する。この検討会で3案を選定し、最終的に選定基準に沿って教育委員会で3案の学校名から1案にしぼっていく。現在の学校名が使えないという規定はない。

4 育てたい子ども像について

新たな学校推進課（資料4-1～2説明）

本日は基本情報の共有という形として、次回の検討会で委員の皆様お一人お一人にご意見、お考えを聞いていきたい。考えるにあたっては意見募集結果なども参考にしてほしい。

委員 皆さんお一人お一人、きっと新しい学校をつくるこの会議で思っているところがあると思う。そういうものをそれぞれが少し話す時間みたいなものがあるといいなと思った。

新たな学校推進課 2022年2月に実施した意見募集の回答率が多いとは言えないと考えているが、知ってもらえる方法、ひいては回答率を上げるために地域などにおいて何かアイデアがあればお聞きしたい。

現状では、町田市のホームページや広報を通じてお知らせをすることを想定して

いる。今のご時世でもあるが、回覧をしてもらうことも難しい状況。町内会・自治会等の掲示板等に掲載をお願いしてもなかなか届かないのかなど。

委員

今ここで見ると、50%に達しているのは今の児童と先生方。非常に身近で説明ができる範囲のところだけ。未就学児の保護者とかは、多分学校に対するイメージがなかなかつかないんだと思う。地域の人たちも、自分から情報取りに行かないと、そういうのは今はなかなか入ってこないということもある。私たちとしてできることとしたら、青少年健全育成地区委員会の会議や町内会・自治会の総会とかでアピールするなりして知ってもらおう。よっぽど関心を持っている人じゃないと、なかなか知ること自体もないみたいなのところがあると思う。この検討会の委員がそれぞれの出席している会議などで発信をすることも大事なと思う。

委員

先日、町内会で本部役員会があった。その折に、学校づくりに関して、皆様に呼びかけをして、このお話を煮詰めていこうじゃないかというお話したところ、それはいいなというお返事をいただいた。この件でも進めてまいりたいと思います。

委員

他の委員からも今お話があったように、青少年健全育成地区委員会の集まりが、特に本町田地区はちょうどこの統合3校。本町田小と本東小と町田三小が集まって地区委員会に出席していて、その場でも、私はよく言っているが、ここに3校が集まっていることに大きな意味があるということも少し話題として出している。そういう場合において、もし可能ならば、新たな学校づくり推進課の方が来ていただいて、こういう意見募集を6月にしますよということをお願いしていただくのは、大きな効果が期待できると思っている。地域の方も前向きに考えていらっしゃると思う。特に本町田地区の場合、子どもを校区の中で集めてお祭りをしたりとかものづくりをしたりとか、様々な交流活動もしているところなので、ちょうどいい場面になるのではないかなと思う。ぜひ地区委員会を活用されるといい。

新たな学校推進課 委員の方々に、それぞれ何か集まりがあるといった場面で本町田地区における新たな学校づくりに関する取組みの周知をしていただくということについては、ご協力のほど、ぜひお願いをしたい。

また、市教委としても、青少年健全育成地区委員会などの集まりに今後参加をさせていただき、まずは新たな学校づくりの取組の説明や検討会の進捗状況についてご説明をしたい。

このほか特に保護者の方でご関心が高いのは、通学の安全であったり、通学距離が延びるところを心配されているお声を多くいただいている。今後、保護者の方々に対してはもちろんだが、委員の方々についても検討の方向性のイメージが湧きやすくなるような形で説明をしていく必要があると認識している。

あと、旧校名の使用について何かお考えがあればお聞きしたい。

委員

学校協力者、それと地域の代表で私は出ていますので、本町田地区全体を見たときに、町田第三小学校というのは歴史があって非常に古い学校です。自分も三小の出身、中学校は町田第一中学校。昔だと、徒歩で今井谷戸から三小まで歩いた。その当時は、やっぱり交通手段もあまりなかった。そういう歴史のある学校が、今後、今

回の意見書を集約するに当たって、町田第三小の名前を使わないでという方向よりも、旧校名の制限がないよう意見募集をしてほしいことを発言した。それはやっぱり崩さず行ってほしい。

新たな学校推進課 他にも、回答してもらおう案の数について、1案ではなく複数案のほうが良いということなどについてご意見をお聞きしたい。

委員 いろいろ出したいところでもあるが、多くの人から募る場合、これだという究極で考えてもらって選んでいくほうが良いと思う。

新たな学校推進課 そのほか学校名にも限らずご意見があればお聞きしたい。

委員 今回、学校づくり意見募集の分厚いほうを読ませていただいて感じたことだが、今回の統合において、非常に広範囲な児童たちを集約するということでは、本町田東小学校を使うに当たって非常にリスクが多い。要するに、意見募集をしても、反対的な文章が結構多いなと見えた。確かに、児童を学校に通わせるときに路線バスを使う話と、それ以外の方法として、スクールバスをやっぱり確保したほうが良いかという進め方に、自分としてはかじを切ってほしいなと。その辺の詳しいご回答をお願いしたい

学務課 通学が遠くなってしまう子ども達への配慮については、教育委員会では、まずは学校から居住地までの距離が、小学生が1.5キロメートル、中学生が2キロメートル以上の場合に路線バスで通学をすることが可能かどうかについて確認していきたいと考えている。そのときのバスの費用については通学費補助制度により費用負担について補助していく。

路線バスで通学できない地域は、新たな通学手段として、大型バス、小型バス、乗り合い方式を含むタクシーなどの交通手段を検討していく。加えて、また新たな通学手段の検討と並行しまして、通学の負担軽減を最優先とした学区外への通学制度の見直しを検討していく。

委員 スクールバスを導入することを積極的に努めてもらえないかというご意見だったと思うんですが、そこに対する今お答えはいただけていないのかなと感じた。ほかの方法をという話だが、一番安全で安心な方法という、確実な車両を用意することだと思うがどのように考えているかお聞きしたい。

学務課 通学方法を検討する際の優先順位としては、現在他の学区の子どもたちが活用している路線バスを利用する通学費補助制度を考えている。その路線バスが使えないところにつきましては、どのような通学方法を実施していくのかということになるが、スクールバスを、町田市全域で車両を買うことがかなり難しい状況でもあると考えている。スクールバスを導入するにしても委託なのか直接の運行なのかなど今後どういう方法ができるかを検討していく。

委員 前回の説明とあまり変わりはないと感じた。

委員 全体的に難しい、難しいという話で、そういうニュアンスで、おかしいのではないかなと思う。3校統合という場合に、やはり遠い方がいるので、路線バスを使って児童を乗せるというのはすごくリスク。子ども1人を路線バスに乗せることという

ことは、通勤時間の路線バスを使って移動などを想定すると、ちゃんとしたい大人が対応してくれればいいが、それなりの人たちもいると思うので、そこでけがしたりとか、ちゃんと乗せるための誰かがついていないと乗れないんじゃないか。そういうことをちゃんと気にしながらも検討していかないと、後から事故が起きて、これは大変なことになると思う。それもどこまでが遠くて、どのところまでが路線バスを使って、近い方はどうするのという話もいろいろあると思うので、ちゃんとそういうところを検討してほしい。それは時間がかかり過ぎても駄目だと思うので、次の段階として、2025年には東小の子どもたちは本小に移動しなきゃいけない。その子たちをどうするかという話も含めて、早いところ決めていかないと、段階的にバスの問題をもう少し早いところ決めないとちょっと難しいんじゃないかと。後から問題が出て大騒ぎになっちゃうと思うので、気になるのはそこ。

新たな学校推進課 スクールバスの他に、タクシーなどといった手段も含めて、路線バス以外の交通手段も検討する必要があると考えている。次回以降の検討会では、児童の安全に主眼を置いて、通学負担の軽減を検討しなければならないエリアであったり、路線バス以外でこういった移動手段があるかを委員の皆様にご提示した上で、それぞれについてメリット、デメリットを丁寧に確認するなど、次回、検討を確実にさせていただく。

委員

3年単位で子どもたちが通う場所が変わる。3年後には本小に東小の子が行って、その3年後に今度は逆に東小の現在の跡地に戻ってくる。そうすると、2段階の通学経路が考えられなきゃいけない。例えば、具体的に路線バスを使ったときどうなるかというシミュレーションをちゃんとしなければいけない。

現在、バスは、ここは神奈中しか走っていない。神奈中は、東小と三小の前を通過して町田駅に向かうバスと、今度、本小の前を通過しているバスがある。例えばこの時刻表を調べると、三小と東小の間を通過している野津田車庫のほうから来るバスは、朝でも10分に1本ぐらいはあるんです。ですが、本小の前を通過しているバスについては今極めて少ない。1時間に1本ぐらいかな。これで通いましょうと言っても、現実問題、朝の登校時刻に間に合うのかということは、やっぱりリアルにシミュレーションしていかないと、神奈中がそのために増便してくれるなら話は別だが、恐らくそういうことはない。

そうしたときに、例えば、本小に通っている一番遠くの本曾に近いほうの子たちが、新たにできた新しい学校に通うためにバスを使えと言っても、ここを横へ行くだけで、それこそひなた村の近くで一遍降りて、そこから歩いていく。逆に東小の子どもがこれから本小に通うときも、例えば、今井谷戸のほうにいる子どもたちが本小まで行く間、バスを使うとしても、やっぱりひなた村で降りて、ここを歩いて来なきゃいけないことになる。歩いている時間とかそういうことも含めたシミュレーションをした上で、本当にこの状態で子どもたちを通わせていいのか。特に今お話があったように、幼稚園、保育園から上がってきたばかりの1年生の子どもたちがそれに耐えられるかといったところで、やっぱり非常にリスクだと思う。

だから、そういうことも含めて、この前、校地をどういうふうに整備するかというところで、スクールバスのロータリーなんていう話も出てきているわけなので、そこを真剣に考えていかないと、やっぱり保護者、地域の人たちの関心がどうしてもそこに向くのは当たり前だと思う。毎朝、この地域は本当にたくさんの人たちが見守りで立ってくださっている。その見守りの人たちも広大な地域にこれから広がっていくわけですから、そんな中で協力をしていただくためには、どんな準備ができているのかを明確にしないと、これはなかなか難しい話になるなと思うので、具体的なシミュレーションが欲しいなと思う。

学務課 そうしたリアルなシミュレーションについては調査のほうも準備している。教育委員会としてどういったことが対応できるかを検討していく。

新たな学校推進課 次回の検討会では通学路の安全対策を議事の内容として考えてはいたが、あらためてスクールバスなどの通学の負担軽減についてお答えが十分でないというところがあった。今回は、通学負担の軽減に関して基本情報をもう一度整理をし、ご説明をしたうえで、路線バスだけではなく、どういった移動手段のツールがあるかを提示して、一つ一つそういったところを確認して、ご意見をいただきたいと考えている。

委員 通学のことで、子どもの居住地がわかる地図を前回見せてもらった、それは個人情報なので回収しているものではあるが、あれを見れば、バス代の補助がある1.5キロよりも遠いお子さんというのは明らかに分かるのではないかなと思う。明らかに1.5キロより遠いお子さんたちがどういう交通手段を使えるのかというシミュレーションは、そんなに難しくなくできるんじゃないかなと思うし、現実にやくし台センター行きのバスは40分に1本しかなくて、それで一体何人の子どもがそのバスに乗れるのかとか、始業時間に間に合うのかとか、下校時刻の頃、ちょうどバスがあるのかというのを見れば、では、路線バスで通えない子はどうすればいいのか、具体的なシミュレーションは結構すぐできちゃうんじゃないかなと自分は思っている。

通学の話はもう終わりにして前回、A案、B案、C案と名がつく建物の配置、斜面側のほうに主な校舎があるとか、団地側に主な校舎があるとかとあって、皆さんからたくさんの意見が出た。また、今回、アンケートをして、本町田東小学校の良いところ・改善してほしいところという、ここで言う資料2-1の1ページのアンケートもあるが、本町田東小学校の改善してほしい体育施設の位置とか、教室間の距離などの施設配置とか、こういうのも入れた校舎の配置の次の進み方はどんな計画になっているのか、そういうのを教えてほしい。

新たな学校推進課 今後の進め方というところですけれども、新しい学校については、地域の方々にも使っていただける学校、地域の拠点となるような学校をまず目指している。そういった中で、セキュリティー、子どもたちが使うゾーンと地域の方々を使うゾーン、まずそちらを使いやすさも考えた上で明確に分けるところが必要になってくるかと思っている。また、今後、地域の方々新しい学校において、どういった施設があると、拠点という意味合いも含め、さらに利用していただけるかをまずお伺いしたいと考えている。

あとは、実際に建物配置イメージ図をもとにいただいたご意見については、児童の安全などの目的別に分類したい。また、実際に本東小の校地を皆様と見て回りたいと考えている。実際に校地の状況を見ると、また新しいご意見が出てくると思うので、それに基づいて、具体的に、改めて配置を考えるのであったらこうしたほうがいいんじゃないかとか、来年度からの具体的な設計を考えるに当たってはこれを反映をさせたほうがいいんじゃないかななどのご意見を聞いていきたい。

委員

私が在住しています地域の方は、「本当に学校が統合するの？」でまだ止まっているような気がする。なので、今お話を聞いていますと、若い世代の方に向けた回答のような気がしている。あと今、高齢化が進んでいる。各自治会は高齢者ばかりなので、特に本東小の工事とかいろいろ始めると、いろいろ地域の方も戸惑うことがあるんじゃないかと思う。もう少し地域の方に周知していただくと助かるかなとは思っている。

新たな学校推進課

先ほど、委員の皆様がほかでご参加いただいている青少年健全育成地区委員会であったりとか、自治会の集まりであったりとか、やはり今コロナ禍というところで、2年前ほどからなかなかそういった集まりに参加しにくいという状況がある。皆さんがお集まりいただいている中に私たちが出向いてご説明するところも、機会としてなかなか難しかった部分はあるんですけども、コロナの状況を踏まえつつにはなるが、自治会の方の集まりであったりとか、青少年健全育成地区委員会の方の集まりであったりとか、そういったところに積極的に参加させていただきたい。

私たちも青少年健全育成地区委員会の役員会の日程などは担当課から聞いている。そういった大人数の集まりでなく、小さな集まりでも、また、この集まりに出るとより学校づくりという話がより地域の方々に行き届くのではないかというものがあればぜひ教えていただきたい。

委員

今お話があったように、できればいろいろな会合等に行って、他の委員もおっしゃっているように、もっとPRというか、どこまで進んでいるかを伝えていくべきだと思う。

その中でも考えておかなきゃいけないと思うのは各地区の防災。このコロナ禍の中で、各地区で毎年やっていた防災訓練がほとんどできていないが、いつ起きてもおかしくないような状況。例えば、工事をしている3年間とかその後統合した3年間とかというのは、それぞれの地域の中で、では、どうやって避難するんだ、どこへ避難するんだというのが、もう計画を立て始めないと、町会、それぞれの自治会も動かないと思う。実際に本町田東小学校が工事に入った後、今、本町田東に避難している人たちが、では、どこに避難するの。それを地域の人たちに知らしめるためには、直前に言われてもそんなことはできない。やっぱりそれに向けた訓練が必要になってくるという段階的な考え方をしていけないと、地域の人には入っていかないと。なので、説明する会合の中の一つに、ぜひ各地域の避難所運営会議みたいなのところにも出ていただければと思う。

新たな学校推進課

学校は有事の際の避難先でもあるため、今ご指摘いただいた事項については、学

校跡地の議論としても考える必要がある。お話しいただいた防災に関することなどは、関係部署には必ずお伝えをさせていただくとともに、そういったところに私たちも参加して、新しい学校づくりと防災をどうするか、また、学校の跡地をどうしていくというところも踏まえて、話をしていきたい。

5 次回検討会について

新たな学校推進課 次回の開催の日程は、2022年5月13日金曜日 14時～ 本町田東小学校。

副会長 閉会のあいさつ